

(参考2) 主要品目の生産努力目標

(単位：ha、t、kg/10a、頭、kg/頭、羽)

主 要 品 目		生 産 努 力 目 標		生 産、流 通 及 び 消 費 に 関 す る 主 要 な 課 題		
		現 況 (H 25)	目 標 (H 37)			
米	作付面積	113,000	113,000	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道米の道内食率 85 %以上の確保と米消費量の拡大 ○ 極良食味米や業務用米、酒造好適米、飼料用米など、多様なニーズに応じた品種の開発・普及 ○ 品種の特性を最大限発揮する栽培技術、担い手の規模拡大に対応できる直播栽培技術や無代かき栽培技術、ICTの活用などによる低コスト・省力化生産の推進 ○ 農地の大区画化や排水対策、農業水利施設の計画的な整備促進 ○ 乾燥調製施設等の再編・整備 		
	10a 当り収量	—	—			
	生産量	633,428	637,650			
	米(飼料用米・米粉用米等を除く)	作付面積	112,200		107,400	
		10a 当り収量	562(535)		560	
		生産量	630,457 (600,270)		601,440	
	飼料用・米粉用米等	作付面積	800		5,600	
10a 当り収量		522	710			
生産量		2,971	36,210			
小麦	作付面積	122,000	123,000		<ul style="list-style-type: none"> ○ 気象変動に対応し、加工適性が優れ、多収で病害・障害に強い品種の開発・普及 ○ 気象変動の影響を緩和する用途別・品種別安定生産技術の確立・普及 ○ 需要の確保及び需要に応じた安定生産・品質の確保 ○ ICTの活用などによる低コスト・省力化生産の推進 ○ 乾燥調製施設等の再編・整備 ○ 農地の排水対策の計画的な整備促進 	
	10a 当り収量	436	529			
	生産量	531,900	650,100			
	日本めん用他	作付面積	101,000			93,000
		10a 当り収量	454			570
	パン・中華めん用	作付面積	21,000	30,000		
		10a 当り収量	347	400		
	生産量	72,900	120,000			
大麦	作付面積	1,740	1,740			
	10a 当り収量	292	370			
	生産量	5,080	6,438			
大豆	作付面積	26,800	31,000	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気象変動に対応し、多収で病害・障害に強い高品質な品種の選定・普及 ○ 気象変動の影響を緩和する安定生産技術の確立・普及 ○ ICTの活用などによる低コスト・省力化生産の推進 ○ 農地の排水対策の計画的な整備促進 		
	10a 当り収量	229	250			
	生産量	61,400	77,500			
小豆	作付面積	26,200	24,000			
	10a 当り収量	243	250			
	生産量	63,700	60,000			
いんげん	作付面積	8,380	10,000			
	10a 当り収量	174	235			
	生産量	14,600	23,500			
そば	作付面積	22,200	20,000		<ul style="list-style-type: none"> ○ 気象変動に対応し、加工適性が優れ、多収で病害・障害に強い品種の開発・普及 ○ 省力的で高品質安定生産技術の開発・普及 ○ 需要の喚起及び新たな需要の創出 ○ 農地の排水対策の計画的な整備促進 	
	10a 当り収量	68	100			
	生産量	15,100	20,000			
	作付面積	22,200	20,000			
	10a 当り収量	68	100			
	生産量	15,100	20,000			

※ 注1：「10a 当たり収量」欄の () は、平成 25 年の年平均収量を参考記載
 注2：「生産量」欄の () は、作付面積に年平均収量を乗じた数値を参考記載

(単位：ha、t、kg/10a、頭、kg/頭、羽)

主 要 品 目		生 産 努 力 目 標		生 産、流 通 及 び 消 費 に 関 す る 主 要 な 課 題
		現 況 (H 25)	目 標 (H 37)	
てん菜	作付面積	58,200	60,000	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適正な輪作体系の維持に向けた作付けの拡大及び生産の安定化 ○ 直播栽培の収量の向上及び安定化、並びに移植栽培における育苗作業の外部化など省力化栽培の推進 ○ 気象変動に対応した耐病性品種の普及や適切な防除の推進 ○ 農地の排水対策の計画的な整備促進
	10a 産出量	5,900	6,120	
	生産量	3,435,000	3,680,000	
馬鈴しょ	作付面積	52,400	52,500	<ul style="list-style-type: none"> ○ 需要が増加傾向にある加工食品原料向けの生産拡大 ○ 作業の共同化や外部化による労働力確保や省力化技術の導入 ○ ジャガイモシストセンチュウ等の病虫害抵抗性を有し、加工適性や貯蔵性に優れた新品種の開発・普及 ○ ジャガイモシストセンチュウ等の病害虫対策の実施 ○ 農地の排水対策の計画的な整備促進
	10a 産出量	3,580	4,010	
	生産量	1,876,000	2,105,250	
野菜	作付面積	56,800	60,800	<ul style="list-style-type: none"> ○ 消費者や実需者等の視点に立って、消費の形態の変化に対応し、新鮮で安全・安心な野菜の安定供給に向けた取組の推進 ○ 産地の将来像を明らかにした産地強化計画の策定及び戦略的な生産・販売体制の整備 ○ 価格低落時に対応する価格安定基金制度の着実な実施 ○ 加工・業務用需要に対応する、作柄安定のための取組や低コスト生産システムの推進 ○ 出荷期間や販売地域の拡大を図るための生産・貯蔵技術の確立・普及 ○ 省力化、軽労化に対応した用具や機械の開発・普及 ○ 地域に適応した品種の選定・普及及び栽培技術改善の推進 ○ 気象変動下において安定的に生産できる高度な環境制御を行う施設園芸、養液栽培技術の開発・普及 ○ 農地の排水対策の計画的な整備促進
	10a 産出量	—	—	
	生産量	1,509,744	1,748,815	
果実	作付面積	2,903	2,910	<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹農業を支える担い手の育成・確保による産地の維持 ○ 消費者ニーズに即した優良品目・品種の導入による改殖及び観光果樹園や産直販売向けの多品目生産の推進 ○ 異業種からの新規参入が期待できる醸造用ぶどうや小果樹類のさらなる生産振興 ○ 加工向けや地域に適応した品種の省力化・低コスト栽培技術等の開発・普及の促進 ○ 果実加工品づくりの促進等付加価値向上に向けた6次産業化のより一層の推進 ○ 産地情報や果実の機能性成分等に関する情報提供を通じた道産果実の認知度向上や需要喚起 ○ 高品質栽培やブランド化の推進による道産果実の評価向上
	10a 産出量	—	—	
	生産量	20,503	20,683	

(単位：ha、t、kg/10a、頭、kg/頭、羽)

主 要 品 目		生 産 努 力 目 標		生 産、流 通 及 び 消 費 に 関 す る 主 要 な 課 題
		現 況 (H 25)	目 標 (H 37)	
飼料作物	作付面積	595,300	595,300	<ul style="list-style-type: none"> ○ 酪農・畜産の経営体質強化を図る飼料基盤整備の計画的な促進 ○ 牧草の優良品種を用いた植生改善 ○ 栽培管理技術の高度化や簡易更新の推進 ○ サイレージ用とうもろこしの作付限界地域への拡大 ○ 放牧による自給粗飼料利用率の向上や飼料費の低減 ○ 新品種や安定生産技術の開発・普及
	10a 当り	—	—	
	生産量	20,020 千t	22,153 千t	
乳用牛	飼養頭数	795,400	802,700	<ul style="list-style-type: none"> ○ 労働負担の軽減を図る省力化機械の導入や営農支援システムの整備 ○ 新規就農希望者への情報提供や離農跡地等の有効活用による円滑な経営継承の推進 ○ 地域の実情に応じた大規模法人、特に農協や民間企業等の共同出資等による法人の設立を支援 ○ 飼養管理の改善による乳用牛の供用期間の延長、分娩間隔の短縮、受胎率の向上などの生産性向上 ○ 性別別精液や受精卵移植技術の活用により優良な後継牛を計画的に確保
	うち経産牛	470,300	470,800	
	一頭当たり乳量	8,056	8,500	
	生 乳	3,849 千t	4,000 千t	
肉用牛	飼養頭数	509,800	510,300	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飼養管理の改善による繁殖雌牛の分娩間隔の短縮や供用期間の適正化 ○ 一貫経営への移行や、哺育・育成センターの導入等により、地域で繁殖・育成を集約化する体制を構築 ○ 耕種部門への肉用牛導入や肥育素牛導入のコストを削減するため酪農を取り入れた複合経営の推進 ○ 優良繁殖雌牛群の造成 ○ 肥育技術の向上による肥育期間の短縮 ○ 消費者ニーズに合わせた肉用牛生産を推進し、高付加価値商品の開発やブランド化の取組を推進
	うち専用種	176,000	197,600	
	うち乳用種	333,800	312,700	
	牛 肉	88,113	89,000	
豚	飼養頭数	626,000	657,000	<ul style="list-style-type: none"> ○ 消費者ニーズに即した高品質な豚肉生産と生産コスト削減に向けた取組の促進 ○ 防疫等衛生管理の徹底などによる生産性の向上に向けた取組の推進
	子取用雌豚	54,400	57,100	
	豚 肉	87,560	91,926	
ブロイラー	飼養羽数	4,849 千羽	4,815 千羽	<ul style="list-style-type: none"> ○ 需要に応じた計画的生産の推進 ○ 消費・流通ニーズに対応した肉質の向上と生産コストの低減に向けた取組の推進 ○ 飼養衛生管理の徹底による安全・安心な鶏肉の確保
	鶏 肉	101,161	100,452	
採卵鶏	飼養羽数	6,770 千羽	6,459 千羽	<ul style="list-style-type: none"> ○ 需要に応じた計画的生産の推進 ○ 消費・流通ニーズに対応した卵質の向上と生産コストの低減に向けた取組の推進 ○ 飼養衛生管理の徹底による安全・安心な鶏卵の確保
	うち成鶏	5,147 千羽	4,911 千羽	
	鶏 卵	105,991	101,131	